

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 35 号

発行日
2024.9. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○変わらなければいけないのに、何故変わらない?!

今日から、9月である！季節はずれの、しかも飛んでもない台風(10号)が、列島各地(敢えて「書く」を襲った！当地にとつてみれば、まさに「青天の霹靂」であつたろうが、地球(気候)は、やはり激変しているのである！地球温暖化の為せる業でもあろうが、国内外の世情の変化も、実は、それ以上に進んでいる？では、我々の生活意識は、それに対応するだけのものとなっているのであるか？様々に対応できる動きを取っている人(達)もいるであろうが、こと「政治」の世界は、相変わらずである?!

ところで、今日、私の住んでいるG市では、市長選挙の公示日である！立候補者(二人)の選挙カーが、入れ替わり立ち代わり、我が居住区を(も?)回っているが(随分前からそうであつた?)、申し訳ないが、ほとんど新鮮味が無い?!顔触れは変わっても(二人は、元職者ではあるが!)、選挙自体のスタンス？が変わっていないということである？相変わらずの構図と言えはそれまでであるが(ここでは詳しいことは書かない!)、例の問題を含めて、どちらが当選するにしても(←本日8日結果が出た!)、事態はほとんど変わらないようにも思う(多分、多くの人がそう思っている?)!! ちなみに、ネット上で、面白い記事を読んだ！元大阪府知事／大阪市長のH氏の論稿記事であるが、いわゆる「無党派層」の取り込み？をいかにすればよいかということであつた(ただし、それは、いわゆる「総選挙」における戦略ではあるが!)?政治戦略と言えはそれまでであるが、我々は、出て来た候補者の誰かを選ばなければいけないのである！そうであるならば、その一点で、変化を期待する他ない?!

○「頑張るな!」(にあるメタファー)を勘違いするな!

ところで、最近、とみに聞かれるのが、「頑張るな!」(あるいは「頑張り過ぎるな!」)という物言いである!だが、頑張り過ぎることは、間違いないことである!それは、子どもの世界であれ、大人の世界であれ、至るところで実感される(それが普通でもある?)!だから、この「頑張り過ぎるな!」という言質(メタファー)は、短絡的に捉えれば、その反対を求めている(ストップをかけている?)ことになる?!もちろん、そうではないであろう!要は、現時点(これまで)の自分(達)の頑張り、少し冷静に見つめ直してみよう!そういうことなのだと思う!

今どき、こういうことを言うと、何と時代錯誤なのだとか、本当に苦しんでいる人達の訴え(惨状?)が分かっていないのだとか言われそうであるが、どうしても、私には、その言質の曲解(都合のいい肯定?)が気になるのである!みんな頑張り過ぎるからこそ、今があるのであり、将来の自分(達)があるのである!ただ、本当に、必要以上の過多があつたり、低収入で喘いでいるのであれば、それはそれで、絶対に解決されなければならないのではある!だが、そのことと、自らの業務や責任の遂行とは、基本的に無関係である(頑張り過ぎてはいけないのである!)!! 要は、どのようにしたら、その過多を減らせるのか?どのようにしたら、そこに、「働きたい」を見い出せるのか?そこが重要だということである!かの「働き方改革」とは、業務や責任の量を単純に減らすことでもなく、労働時間の短縮でもない(ましてや給料の上乗せで済むものでもない?)!まさに、「働き甲斐改革」なのである!

○もう一人の自分が、自らを救つ?

敢えて今、こういうことを書くことに、どれほどの意味(重要性)があるのかは、自分でもよく分からないが、一度は書いておきたいことではあるので、少しチャレンジしておきたい!直接の動機としては、先般も触れたが、ageと言う名の女性歌手の登場光景である!彼女は、いわゆる「ボーカロイド」として脚光を浴びているわけであるが、一人の人間(女の子)が、生き辛い現実(悉)から逃避するために(こう言い切ってしまうには問題があるかもしれないが?)、もう一人の自分(世界)をPC上に築き上げ、逞しく生きていくということに対してである!

ところで、「もう一人の自分」ということであれば、古くは、ペンネーム(雅号等を含む)という存在がある(他ならぬ私も、それを活用している!)!近年では、ITの進展によるハンドルネーム(品性や知性に欠けるものも多いが?)やアバターも、そういうことになるのである?!ちなみに、「Age」という名前は、小学生の時、国語の授業で聞いた、狂言の「シテ」と「アド」が由来。響きのかっこよさに惹かれて名乗ったが、主役のシテを支えるのが脇役のアドと知り、自分の曲を聴いてくれる人に代わって戦う存在、誰かの人生の脇役になりたいという意味も後付けで込められているらしい(また、英語の「age」には「骨折」「騒ぎ」「面倒」という意味があり、「自分に合っている気がする」。本人曰く「根暗で自信がない」性格。通常の歌手では無く「歌い手」の道を選んだのも自分の姿が商品になることに抵抗があつたからだである)。

これについては、先日見た『日曜日の初耳学』での米津玄師のことも思い出される!番組では、名曲「Lemon」に込められた祖父への想い、宮崎駿監督からのオファーで誕生した「地球儀」など、ヒット曲誕生の裏話から謎過ぎる私生活についてまで迫るとあつたが、彼にも、ここで言う「もう一人の自分」が、逞しく創られているということである!!余計なことではあるが、折角創り上げた「もう一人の自分」が、かの「業界(芸能界?)」に掻き乱され、気がつけば、健全な人格を失ってしまうのではないかと懸念もあるが、人は、「もう一人の自分」がいることで、救われるということでもある!! (井上)

○諸悪の根源？は「拒否権」の存在にある？！

最近では、米国大統領選の逐次情報、そして、我が国の首相決定に繋がる、ある党の総裁選の様子が、嫌と言うほどマスコミによって報じられているが(別の党の代表選のことも含むが)、かのウクライナ戦争やガザ地区の災禍の行く末を、本当は、どうにかしないといけないのだが、そのカギを握っているはずの「国連」の動きが、まったく報じられていない(戦争の災禍だけは、相変わらず報じられているが)！

ニユースバリューがないということではあるが、最近、これといった動きがないということであれば、それ(直接的には「安保理」は、まったく「機能不全(麻痺?)」を起しているということでもある！もちろん、主因は、「常任理事国」(強国)の「拒否権」にあるが、その発動によって、他の多くの国々が、「変わりようがない！そうであるなら、自分達の(も?)私利私欲で生きていくしかない!」、そういうことになってしまっているというところである(結果、「バイの分捕り合戦」への部分参加、あるいは傍観の場としかかっていないということである?)!!

ところで、過日、「80億人 人類繁栄の秘密」というテレビ番組(NHK「フロンティア」)を観た。「今世紀中に100億人を突破すると予測されている…人類。言語や道具を用い、高度な文明を築き上げてきた。しかし、繁栄の理由はそれだけではない。実は、文字が生まれるよりはるか前に、現在の繁栄に通じる出来事があった…。「ヒト」という生物を改めて見つめ直し、人類繁栄の秘密に迫る」ともあったが、それが「共同(協働)性」である！だが、その「共同(協働)性」が危ない!!だから、「国連」においては、少なくとも、紛争の「当事者」が「常任理事国」である場合には、その権限(拒否権)は停止されるべきである!そのことを、総会によって決める!それが筋というものである!!それが出来なければ、「ヒト」の繁栄は、いずれ終わる(動物実験から)!!

○神社は、何故多いのか？

これもまた、敢えて今ここで書くほどのことではないが、我が国には、「神社」というものが多い。ただし、ここで言う神社とは、観光地や○○祭で有名な、煌びやかで(失礼だが)、いかにも儲かっている風な神社ではない!寂れた集落の一角(鎮守の森?)に、ひっそりと佇んでいる、廃社とは言わないが、色褪せた社屋(殿)で、まるで誰も訪れていないような(言い換えれば、見捨てられたような感がある)神社を指している!

自然崇拜(テニズム、盤座/神奈備(山)/祖霊信仰等)様々なルーツがあるのであるが、この歳になって思うことは、そういう形で、自らの精神性(心性)を、日常生活の奥底に置き、ただひたすら世話をする、名も無き氏子さん達のことである!遷座地の移動や社家の交代、祭神(名の変更や改竄(合祀や付加を含む)等の苦難があったであろうが、どうして、そのような対応ができるのか?その精神性(心性)は、おそらく縄文から続く、我が日本人の生き様、そして、その来し方にあるのかもしれない!!

・短歌に託して「さりげない「ハレ」と「ケ」の世界?」
・変わらなければいけないのに 何故変わらぬか?
・変わりたくない人がいるからか?

・「頑張るな!」を勘違いするな!

そのメタファーには 落とし穴あり!!

・もう一人の自分 どんな形であろうか

絶対に必要! 生きていけるのだから!!

・「拒否権」は あつてもいいが

強者の我儘に随せば 元も子もない!

・煌びやかな社に興味はないが

そっとそこにあるものには 何故か惹かれる!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ⑤

○改めて、古代九州の全体像を探る―その6―
さて、前にも述べたかとも思うが、件の「武内宿禰(摩大臣?)は、常に「神功皇后」に寄り添うように、筑後に現れたり、朝鮮半島に渡ったり、さらには、何故か、北陸や東北においても顔を見せている―ましてや終焉の地が、山陰(鳥辺?)ともされている―まるで彼は、かの倭の五王の最後「武」が、宋への上表文(5世紀末)で述べている「祖禰(先祖連)」そのものようである(年代的にも合う異常な年齢?)!!

でも、もしそうであるならば、彼は、ある特定の人物ではなく、ある勢力の統合(和合?)人格として描かれているのかもしれない?あるいはまた、当該の何人かの人物、さらにはその勢力(高城諸部)を、総称して名付けたものなのかもしれない(前者は、そのためもあつてか、現代でも、その○○世と名乗っている人がいる)!!ちなみに、彼自身?は、景行/成務/仲哀/神功皇后/応神/仁徳の、6代の天皇(主君)に仕えたとされている!

とは言え、かの高良大社周辺では、邪馬台国の変容(解体?)に前後して(3世紀末から4世紀初頭?)、北・西からは背振山麓勢力(新羅・多羅・百濟王族?)、南・東からは球磨會社/多氏勢力が、それぞれ集散離合を重ねながら、まさに「倭の五王」の時代を迎えるということである(筑紫倭国を中心とした、新たな倭国/倭國?)!!それが、実は、通説(俗説?)による「河内王朝」の事績と、どのように結びつくのかということであるが、この史実がクリアされれば、未だのことが分かれは、謎だらけの古代史(建國)の解明も、一気に進むことになる!!

とにかく、そこでは、二つの倭国?が形成されていたこと、そして、それを、かの「武(主)」が、「祖禰(先祖連)」の国土(大統?)としていたこと、そういうことが分かるのである!!だが、問題は、それらが、いつ、どのようになされていったのかである!それを、脚色物語という形でデフォルメしたのが、かの「記紀」ということになるが、最終的な形が「持統(藤原)体制」であったことは言うまでもない!!(つづく) (堂本)

〈編集後記〉久し振りに(奄美群島の人には申し訳ないが)、台風に見られると思ったが、肩透かしに終わった!夜のベランダから北の上空を見ると、雲の動きがよく見えた!おそらく、この延長線上のどこかに台風を中心があるのだと思われるが、ここでは、ただそれだけ!次はどうなる? (井上/堂本)